

brh.co.jp

表現を通して生きものを考える (SICP) セクター | サマースクール 2011年度の報告 | 催し

2～3分

表現を通して生きものを考える (SICP) セクター 「研究を表現するカード作りに挑戦しよう」



今年のSICPのサマースクールのテーマは、「研究を表現するカード作りに挑戦しよう」。そうです、季刊生命誌のサーチカード作りです。生命誌のサーチですが、私たちSICPのスタッフは、取材をお願いする研究者の検討から始めて、ジャーナルも含めると4ヶ月くらい研究者の方との協同作業をしながら進めます。実際は緩急あるこの長丁場を1日半で体験するのですから、できるだけギュッといいところをつかんで帰ってもらいたい、というのが担当者の願いでした。





今回のスクール生は女性がお二人。取材先は、「チョウが食草を見分けるしくみを探るラボ」の尾崎研究員です。事前に尾崎さんの研究に関する資料をお送りして予習をお願いしたのですが、お二方とも予習万全で、もう後は実戦あるのみ。数少ない私のリサーチカード作りの経験では、研究を伝える表現を探りながら、研究者自身の研究姿勢や研究への想いを通り抜けてきたエキスマイみたいなものが見えてきた時が、一番わくわくします。それができれば成功、と内心思っていたのですが、尾崎さんの人柄やエピソードにストレートにアタックするKさんと緻密に資料を分析し研究を自分のものにしてきたTさんのコンビは、小1時間ほどの取材で尾崎さんの研究も研究にかける想いも、みごとに引き出してくれました。あとは手を動かすのみです。漫画の得意なKさんは早速尾崎さんの似顔絵を描き始めました。研究を掘り下げるTさんは、かなり専門的なデータから意味を読み取ろうとねばります。ガイドスタッフの齊藤さん、岡本さんは、記号の色や形、ちょっとした図の見せ方や配置、言葉使いまで、ほんの小さなことでも試行錯誤するカード作りを再現して臨場感を盛り上げます。スクール生のお二人は、みんなで意見を出し合って考えながら進めていく方法をがっちり受け止めて、作品が変わっていくおもしろさを実感したのではないのでしょうか。

実際にできたカードは本物さながらのできばえで、尾崎さんにお褒めの言葉も頂戴し、苦労も報われたと思います。私もカード作りの初心に返った2日間でした。

平川美夏 (スタッフ)

多くの人が関わりディスカッションしながら良いものが完成する

参加者：Y.T.



以前からBRHカードを拝見しており、ずっと行きたいと思っていた生命誌研究館のサマースクールに参加させていただき本当に嬉しく思います。研修の2日間、スタッフの方や一緒に参加したスクール生のおかげで充実した時間を過ごすことができ感謝しております。ありがとうございました。

普段、教員の仕事をしても思うことですが、科学的な話をわかりやすく、おもしろく、かつ正確に伝えるということの難しさを改めて感じました。14センチ四方のカードという限られたスペースの中で研究者の熱い思いと、研究のエッセンスをいかにして伝えるかを考え、手を動かすのは想像していた以上に大変でした。

特に、文章や図の内容だけでなくその配置や配色などを考えることも重要だというスタッフの方からのアドバイスは勉強になりました。そのアドバイスのおかげでインタビューをさせていただいた研究員の方から発表終了後、「重要なグラフがきちんと強調されていてよかった」と、お褒めの言葉をいただくことができ、非常に嬉しかったです。

カード作りを通して感じたことですが、1枚のカードでも多くの人が関わり、ディスカッションしながら作ることで良いものが完成するということがわかりました。自分で何度も読み返した文章でも、スタッフの方に見ていただくと、

まだまだ削れる部分もあり、変えたほうが良い言い回しもあり、普段何気なく見ているカードが多くの方の手によって洗練された作品に仕上がっているということに気づきました。

また、研究員の方へのインタビューもとても楽しい時間でした。直接お話を伺うことによって、ジャーナルの中には書かれていない実験上の工夫なども詳しく知ることができ、さらには研究に対する姿勢や、研究をするということの魅力も合わせて伺うことができて良かったです。



「今後もSICPの皆さんの活躍に期待しています！ありがとうございました！」

※M.K.さんからは、感想に代えて漫画が寄せられました。

[まんが「表現セクターの旅」](#)

[これまでのサマースクール](#)
